【白紙運動から一年】「微かな火花であっても重要なのです」香港の抵抗運動から刺激を受けた海外の白紙運動の若者たち

アジア自由ラジオ　RFA　2023 年 11 月 22 日

【写真：星月さん（仮名）東京大学で行われた「#ME TOO 東京系列展」では、この 10 年間に中国で発生した#Metoo 事件を展示した。撮影：張仕仁】

昨年 11 月に中国で始まった「白紙運動」は海外にも広がりをみせたが、日本もそのひとつだ。日本では中国人留学生が、中国国内で拘束されている人への支援を訴えたり、個人が SNS などで発信するパーソナル・メディアが盛んになり、フェミニズムや#Metoo も注目を浴びた。「白紙運動」から一年がたったいま、中国国内は静かになり、海外で活動を続ける留学生組織も少なくなってきたが、2019 年の香港の抵抗運動からインスピレーションを受けた人々はいまも活動を続けており、「石を穿つ」ような方法でネットワークを構築することで、より多くの中国人が覚醒することに希望を託している。これまでに市民運動に参加した中国の学生の中には、海外での活動は結局のところ「主体」ではなく、中国国内における変革が必要だという考えもある。

【写真：Metoo 展では、フリージャーナリストの黄雪琴が始めたメディアにおける#Metoo 事件も紹介している。撮影：張仕仁】

2022 年、ビクトリア公園が閉鎖されたその日から

昨年 11 月に中国で起こった「白紙運動」に触発され、東京の中国人留学生はいくつもの集会を開き、新宿では 100 人近い中国人留学生らが白紙を掲げ「ロックダウンはいらない、自由が欲しい」というスローガンや、様々な政治主張を叫んだ。2019 年から日本で留学している星月さん（仮名）もこの運動に参加した。現在は東京で「#Metoo 展」を開催し、フェミニストたちと「白紙運動」で立ち上がったパワーを引き継いでいる。

1989 年の「六・四事件」以降、日本に住む中国人は政治の話をすることが少なくなった。 星月さんによると、白紙運動の前は自分の「政治的登場」を試みたことがなく、海外にいても互いに政治的な話を避けていたことから、多くの中国人の友人たちとは遊び仲間に過ぎず、誰が「小粉紅」（ピンク君＝中国共産党支持の若者を揶揄する言葉）なのかわからなかったという。彼女によると、白紙運動は 2019 年の香港の抵抗運動における「レノンウォール」や「リーダなき運動」などの戦術から啓発を受けたことに違いはないが、彼女の心を揺さぶった政治的事件は、2022 年６月４日に香港警察がビクトリア公園を封鎖した日に端を発していた。なぜなら、6・4 事件を記念してビクトリア公園に行くことが彼女の大きな願いの一つであったからだ。

2022 年、東京の香港人たちは新宿で ６・４ 事件の追悼集会を企画した。星月さんは友人と討論することでさらに一歩進んだ。

星月さんによると「その時、中国人の友人は憤慨していたんです。彼曰く、香港人は天安門事件を羊頭狗肉にしている（香港人の都合のいいように利用している）と言うのです。私は彼にこう言いました。そういうことではないのではないか、私たちにとっての６・４事件と香港人にとっての６・４追悼はすでに違った意義があるのだし、自分たちの活動ではないのだから、そんなに憤慨することもないだろう、もしそんなに憤慨するのなら自分でもやればいいじゃないと言ったのです。こうして『よし、じゃあ 2023 年には中国人自身による６・４追悼の活動をやろう、自分たちの思い描く６・４とは何か、自分たちにとっての意義を外に向けて語ろうじゃないか』という話になったんです。」

【写真：2022 年、東京新宿駅頭での６・４追悼活動には、多くの中国人も参加し、献花などがおこなわれた。撮影：張仕仁】

【写真：2022 年に香港の警察がビクトリア公園での６４追悼集会を禁止したことで、海外の各地で6・4事件の追悼の取り組みがおこなわれた。東京でも中国人の参加が始まった。撮影：張仕仁】

【写真：星月さんは 2022 年に東京で行われた６・４追悼の取り組みに参加したが、中国大使館関係者が参加者の顔を撮影することを恐れて、黙って遠くから眺めていた。撮影：張仕仁】

【写真：星月さんは 2022 年の６・４追悼で、事件から 33 年間の６月４日の月間カレンダーを作成して展示するとともに、ビクトリア公園という民主主義の空間の閉鎖を「追悼」した。写真は星月さん提供】

この運動には香港の匂いがする

日本の白紙運動のグループは今年初め、中国で囚われの身となっている人々にハガキを送ることを呼びかけたアピール行動を渋谷で行い、日本語で書かれたフライヤーを作成して、中国国内の人権弾圧を渋谷の人々に訴えた。東京はにわかに 2019 年のコーズウェイベイになったかのようで、白紙運動のオルガナイザーの動きは香港の抵抗運動の雰囲気が漂っていた。

星月さんによると「私たちが猛スピードで学びつつあったとき、手本にしたのは香港人たちの経験だったのです。香港人は 2019 年の運動を経験し、そして多くのアーカイヴを残した。残されたアーカイヴや記録はとても豊富でした。私の政治に対する覚醒、運動に対する覚醒は香港人の経験を通じて作られたと言えます。」

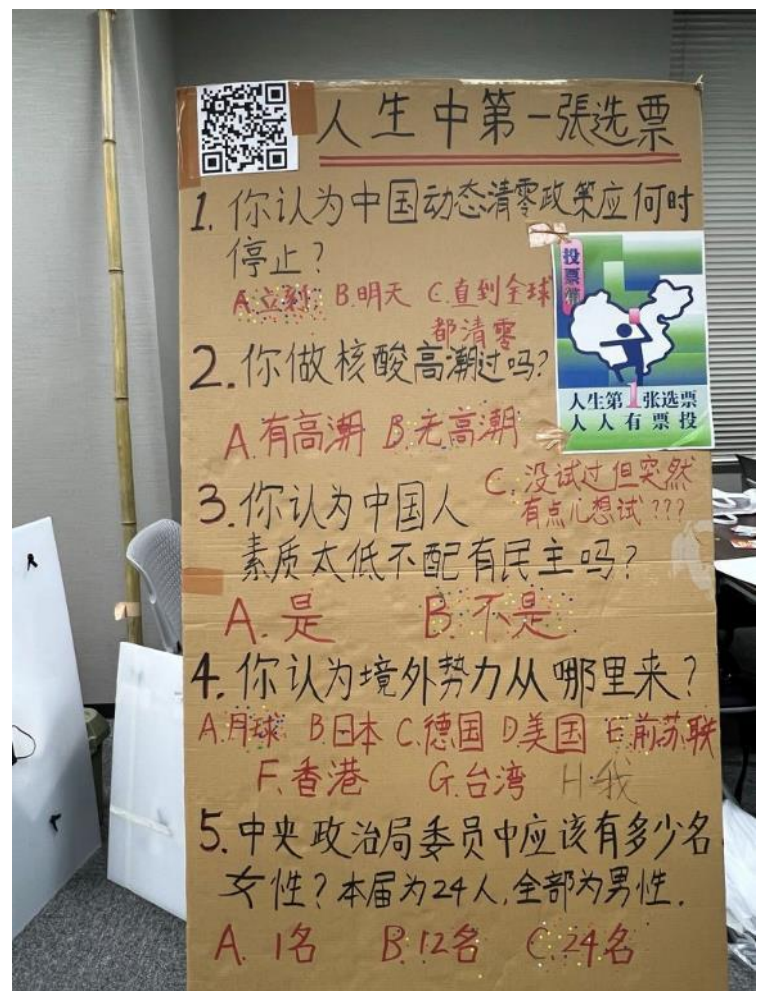
【写真：今年初めに中国人留学生らが渋谷でおこなった李文亮さん追悼の活動とレノンウォール。撮影：張仕仁】

※訳注：李文亮さんは最初に新型ウィルスの疑いを提起したことで当局から処分され、その後、本人もコロナに感染して 2020 年２月７日に亡くなった武漢の医師。

【写真：李文亮さん追悼の他にも、中国国内で囚われの身にある人にハガキを送る「一人一枚のハガキ運動」もおこなった。撮影：張仕仁】

【写真：ハガキの文面を広く SNS で公開しても良い人は「同意」に、NG の人は「不同意」に投函する工夫も。撮影：張仕仁】

東京で白紙運動に参加した Jack さん（仮名）は、中国国内でも市民運動の経験があった。彼女は、北京当局が中国国内で VPN（当局の規制をすり抜けて海外のインターネットにアクセスできる仕組み）を使う人の数を少なく見積もっていたので油断してしまい、当初は海外のインターネットを通じて中国国内の情報を発信するユーザーに対する規制が間に合わなかった可能性があると語った。その例として Apple 社のスマホ製造の鄭州フォックスコン工場でのストライキも（海外 SNS アプリの）Teregram のグループを使って連絡を取り合ったことを挙げた。Jack さんによると「白紙運動」が発生するまでに、中国ではVPN をつかって海外インターネットにアクセスできる市民がある程度存在しており、それは（香港の抵抗運動で言われた）「Be Water」という、臨機応変な対抗言説の発信ができる条件を備えていたという。とはいえ、白紙運動の性質は、香港の抵抗闘争とは異なるとJack さんは強調する。

【写真：「留学生投票」ボード。参加者に「中国のゼロコロナ政策はいつ終了すべき？」「高頻度の PCR 検査を経験した？」「中国人の民度は低いので民主主義を実現できないと思う？」「海外勢力はどこからやってくると思いますか？」「中央政治局委員に女性は何人必要だと思う？」の質問をして、用意された選択肢に答えるという形式の投票スタイル。写真は星月さん提供】

白紙は「一瞬のうちに飛び散った火花」

Jack さんは、「白紙運動」が多くの人々にとって覚醒し行動しはじめた第一歩であり、多くの中国人にとって重要な「覚醒の瞬間（とき）」だったと考えている。

Jack さん曰く「白紙運動は偶然的な契機でしたが、結局、その基本的な訴えのひとつであったゼロコロナ政策の解除は実現しましたが、ほとんどの人は、それで満足したとは言えなかったのですが、そこで止まってしまったのです」。

「白紙運動」から一年が経過した今、日本での運動の組織者のひとりだった星月さんは、組織が分解し、人びとが離散したことを包み隠そうとはしない。（中国国内での）白紙運動はとっくに弾圧され、「一瞬のうちに飛び散った火花」的な運動だったのかもしれないが、それでも意義がなかったわけではない。

星月さん曰く「真っ暗闇のなかでは、たとえ小さな火花であっても特別な存在でしょう。それと同じように、多くの中国人はずっと暗闇のなかにいたのですから、火花も陽の光も観たことがないような状態なのです。だとするとこのような小さな火花であっても、とても重要なのです。」

火種を絶やさず、種を遠くへ飛ばす風を吹き続ける

中国共産党は国内のインターネットのネットワークに「長城」を構築している。最近では「辱包」（習近平を揶揄する）ミームを流しただけで逮捕され、小紅書プラットフォーム（SNS および EC 取引サイト）は IP ドレス表示が義務付けられ、今年初めから主要都市では若者が VPN を使用しているかどうかをランダムでチェックする仕組みが導入されており（中国の法律では VPN 利用は違法となる）、VPN を使って「長城」を乗り越えて海外のネット―ワークにアクセスすることはさらにリスクを伴うようになった。「潤」して日本に留学した Jack によると「長城」の内外は確かに隔離されており、情報が遮断されているという（訳注：「潤」は中国語の発音表記で「run」と表記され、英語の「run＝逃げる」にかけて、中国から海外に逃亡することを指す流行語）。とはいえ、壁の外側でも努力はするが、やはり壁の内側こそが中国を変革する主体だと考えている。

Jack さん曰く「（海外組織は）現場に身を置くわけではなく、せいぜい自分たちが生活するその国の市民組織として（壁の中に）繋がるだけです。しかしこれはやはり、『他者』という立場で（壁の中に）繋がることにしかならないでしょう。」

星月さんの場合、当初は海外の民主化運動は「ハイ（興奮）」状態にあったが、一年が経過して、彼女自身の考えは少し変わったという。

星月さん曰く「海外で活動を維持することに意義はあると思います。それは一種の火種だからです。この火種はタンポポの種にも似ています。タンポポの種はあちらこちらに飛ぶでしょう。なかには途中で消えてしまうものや途中で落下してしまうものもあるでしょう。結局多くの種が目的の場所へ飛んでいけるわけではないですが、それでもタンポポの綿毛を吹き続けていれば、そのうちの一つか二つは目的の場所まで飛んでいくことができるのです。」

星月さんによると、台湾では＃Metoo の風がずっと吹き続けているにもかかわらず、「中国人は中国国内で何が起こっているのか全く知らない」ということに気が付いたという。こうしたことから、彼女は東京で三つのテーマに沿った一連の＃Metoo 展を開催して、最近の中国における＃Metoo 事件を、より多くのひとに知ってもらいたいと考えている。

記者：張仕仁　編集：溫暁平　ウェブ編集：江復

原文　https://www.rfa.org/cantonese/news/paper1-11222023041326.html

翻訳　attac 中国研究会　※小見出しを一部変更しました。以下は＃ME TOO 東京展の案内です。

我也
@METOO_TOKYO
#ME TOO東京系列展
第一主題:archive
2023年11月11日(土)〜11月18日(土)
全日開放 最終日17:00まで
第一会場:東京大學駒場校區
東京都目黒区駒場3-8-1 生協南館2階学食 横
ME TOO
私も
懇談会
Ending Party
2023年11年18日15:00〜17:00
東京都目黒区駒場3-8-1 国際教育棟314
ME TOO

我也
@METOO_TOKYO
#ME TOO東京系列展
第二主題:healing&caring&connection
2023年11月22日(水)～11月26日(日)
12:00～20:00
第二会場:Moon Gallery
東京都台東区北上野2-3-13　上野ダイカンプラザ1階
ME TOO
私も
藝術療癒・圖像表達
木刻版畫工作坊
2023年11月26日(日) 12:00～20:00
ME TOO

我也
@METOO_TOKYO
#ME TOO東京系列展
第三主題:resist&empower
2023年11月25日(土)〜12月3日(日)
週一/週三 定休 13:00〜19:00
第三会場:IRA TOKYO
東京都新宿区1-30-12　ニューホワイトビル3階
ME TOO
私も
表演表達・パフォーマンス&
Opening Party
2023年11月25日(土)
13:00〜19:00
ME TOO